

議題2 人権についての市民意識調査 調査結果の概要報告について

昨年の9月に実施しました「人権についての市民意識調査の結果」についての概要を説明させていただきます。

申し訳ございません、事務処理に手間取りまして、自由記述については、当日資料として配布させていただいております。

報告書の1ページをご覧ください。調査の目的としましては、人権問題に関する市民の意識を把握し、本市の「第3次芦屋市人権教育・人権啓発に関する総合推進指針」の策定の基礎資料とする、としております。

調査対象者は市内在住の16歳以上の男女2,500人を無作為抽出しております。郵送による配布・回収形式。調査期間は、26年9月4～16日とし、9月3日に送付しました。

調査対象への調査票配布数 2,500通 回収数 1,218通 (前回1,227通)

回収率 48.9% (21年 前回49.1%, 13年 前々回49.8%, 25年県40.3%) … 回収率の目標を50%とし、1回、お礼状を兼ねた督促のはがきを送付しています。

調査結果 回答者の属性は7ページをご覧ください。

男女比は、男性497通(40.8%) 女性708通(58.1%) 未記入16通(1.1%)でございます。年齢別は、表に示しているとおりでございます。

次に、「人権全般に関することがら」について、報告します。

右上に議題2「人権についての市民意識調査報告書」と右上に議題3「指標と目標値」のシートをご覧ください。「指標と目標値」のシートには、平成21年調査数値、平成26年調査数値と目標値も記載していますので

「報告書」の8ページ、9ページをご覧ください。「人権を身近に感じている程度」を記載しています。「身近に感じる」が前回、平成21年度実施は36.3%で、今回は35.3%となっており、前年に比べ、若干低くなっています。また、「身近に感じない」割合が、前回の調査では、30.4%に対して今回は30.5%と若干高くなっています。

人権尊重の理念を浸透させるには、人権を自分の事として、身近に感じてもらうことが重要であると言われております。「指標の目標値」として、「身近に感じる」割合を40%以上目指して、これまで人権啓発講演会等の事業を実施してまいりましたが、目標値には到達しない結果になってしまいました。

人権を身近に感じる、感じないかを、「講演会に参加したことがある」か「ない」か、で見ると、参加した人の方が「身近に感じる」50.0%と高い数値となっております。講演会に参加したことがない人よりも参加したことがある人のほうが、人権に対して身近に感じる割合が18.5%も高くなっていますので、今後も、工夫を凝らして、市民の皆様に参加していただけるような人権講演会等を実施してまいりたいと考えております。

次に、「芦屋市では、人権が尊重されていると思いますか」の問いについては、12 ページ、13 ページをご覧ください。「尊重されている」が前回は 30.2%で、今回は 34.2%となっており、「尊重されている」と思われる方が増加しています。増加はしていますが、「指標の目標値」として、「尊重されている」割合を 35%以上とじていましたので、少し、目標値には到達しない結果になってしまいました。

「以前からみた芦屋市民の人権意識」の問いについて、14 ページ、15 ページをご覧ください。「人権意識がよくなった」は前回 23.1%で、今回は 25.4%と、微増しています。増加はしていますが、「指標の目標値」として、「よくなったと思う人」の割合を 28%以上とじていましたので、こちらも目標値には到達しない結果になってしまいました。

「人権を侵害された経験とその内容」の問いについて、16 ページ、17 ページをご覧ください。「侵害された経験がある」は前回 22.7%で、今回は 27.9%と、5.2%増加しています。また、「侵害された経験がない」は前回 74.1%で、今回は 68.8%と、5.3%減少しています。「指標の目標値」として、「侵害された経験がある人」の割合を 18%以下とじていましたので、目標値には到達しない結果になってしまいました。

受けた人権侵害の内容は、「噂や他人からの悪口、陰口により、名誉や信用等を傷つけられた」が 38.8%と一番多く、パワー・ハラスメント 27.1%、公的機関や企業、団体による不当な扱い 26.5%、学校でのいじめ 17.4%となっています。

「関心のある人権問題」の問いについて、26 ページ、27 ページをご覧ください。

「マスコミによる過剰報道の問題」が 49.5%と最も多く、次いで「障がいがある人の人権に関する問題」が 41.9%、「インターネット等を悪用した人権侵害」が 37.8%と多い順になっています。前回調査と比較しますと、上位 3 つには順位の変動はありませんでした。

また、今回の調査では、「人権を侵害された経験とその内容」に加えて、「他人の人権を侵害したことがあるか」、「まわりで、今までに、人権侵害が発生したことがありますか」の設問を加えております。

個別の人権課題についてですが 設問が「何が課題で、何が必要か」を問う形になっています。

「女性に関する人権における問題」の問いについて、39 ページをご覧ください。特に問題があると思われる項目として「男女が共同で行うことができる就労環境や社会の仕組みが整備されていない」があげられています。前回 57.5%で、今回は 57.1%と、0.4%減少し、若干改善されていますが、「指標の目標値」を 52.0%以下とじていましたので、目標値には到達しない結果になってしまいました。他には、「就職時の採用条件・仕事内容・昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違い」が 42.4%、「『男は仕事、女は家庭』など性別による役割を固定的にとらえる考え方」が 39.5%となっています。男女間で差が見られました。

子どもの人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるものとして、「親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する」が56.3%と最も多く、次いで「親が子どもの食事などの世話をしないなど育児を放棄する」が53.0%と、親から子どもへの虐待や親の育児放棄などが問題であると考えてる人が多くなっています。

高齢者の人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるものとして、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が38.7%、次いで「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が36.6%、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」が29.4%となっています。性別や年齢によって、特に問題があると思われるものについての意見が異なりました。

障がいのある人の人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるものとして、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が51.0%と最も多く、次いで「障がいのあるなしに関わらず、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない」が32.0%、「道路の段差解消、エレベーターの設置その他、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」が30.8%となっています。

同和問題に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思われますかという問について、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が27.4%と最も多く、次いで「わからない」が27.3%、「結婚問題での周囲からの反対」が26.9%となりました。他の設問に比べて、「わからない」という回答が多くなっています。

在住外国人の人権の尊重という観点から特に問題があると思われるものとして、「言葉の違いで情報が伝わりにくい」が34.2%と最も多く、次いで「外国人と日本人が、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない」が27.7%、「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」が26.9%となっています。

人権問題に関する啓発活動について

人権問題に関する講演会や研修会への参加経験について、「参加したことはない」が75.5%と最も多く、次いで「何回か参加した」が20.3%、「よく参加した」が2.4%となっています。男女ともに、また、いずれの年齢においても「参加したことはない」が最も多くなっています。特に16～19歳、20～29歳と80歳以上では80%以上と、参加したことのない人の割合が高くなっています。「参加した人の割合」が前回は25.6%で、今回は22.7%と減少しています。「指標の目標値」として、35%以上としていましたので、目標値には到達しない結果になってしまいました。

なお、自由記述欄につきましては、集計が遅れた関係で、当日資料として、お配りしております。こちらもお覧いただき、ご意見等あればよろしくお願ひします。